高齢者介護施設における防火管理者の防災管理能力評価

Assessment for the risk-managing ability of the fire prevention managers on nursing home for the elderly

○西郷大諸、岡田 明、宮野道雄

大阪市立大学大学院 生活科学研究科

Hiroya Saigo, Akira Akira, Michio Miyano

Graduate School of Human Life Science, Osaka City University

1. はじめに

人間の持つリスク・マネジメント（以下RM）能力を、具体的に表現することは大変難しい問題である。しかし、職場の安全管理担当者が抱く、自身の職場の安全性に対する認識の客観性というものが、RM能力の評価基準となり得るのではないかと、この考えから、高齢者介護施設で働く防火管理者を対象として、彼等の持つ職場の防災管理への認識と、調査結果とを比較することにより、RM能力の評価方法を検証した。

2. 方法

2003年12月に、大阪市内の特別養護老人ホームと介護老人保健施設（以下、高齢者介護施設）の74施設に対し行ったアンケート調査から、更に12施設を選んで面接による2回目の調査を実施した（西郷 他、2004年）。前後2回の結果を、それぞれ数値化して比較することにより、防火管理者の目から見た施設の防災管理状況（以下自己評価）と、調査者側から見た客観的評価（以下基準評価）との差に関して、次の4項目についての分析を行った。

- (1) 防火管理者の自己評価点と職歴年数
- (2) 基準評価点と防火管理者の職歴年数
- (3) 基準評価点と自己評価点との差と、防火管理者の職歴年数
- (4) 基準評価点と自己評価点との差と、基準評価点

3. 結果

- (1) 防火管理者の自己評価点と職歴年数
(図1)

- ① 調査対象となった12人は、防火管理者としての職歴年数が1年未満から13年まで様々であるが、施設の防災状況について自身が考える自己評価点は、15～16点を中心として10～22点までランダムに広がっており、職歴の長さとの

の関連性は見られない。

- ② しかし、職歴の浅い0～3年辺りで自己評価点に対するばらつきが大きいのに対し、職歴が5年以上になると、ほぼ中間辺り（15～16点）に集約する傾向が見られる。
- ③ 職場における地位が高い防火管理者（管理職や所有者、またはその親族）は、全般的にやや自己評価点が高い傾向が見られる。

図 1. 防火管理者の自己評価点と職歴年数

- (2) 基準評価点と防火管理者の職歴年数
(図2)

- ① 基準評価点も、ほぼ中間辺り（15～16点）を中心として11～22点の範囲にランダムな広がりを見せ、図1と同様に職歴年数との関連性は見られない。
- ② しかし、職歴年数0～3年辺りで、図1の自己評価点よりもばらつきが小さくなっており、これらから、経験が浅い防火管理者ほど、施設の防災管理状況を客観的な目で把握することが難しい、ということが推察できる。
- ③ 職務上の地位が高い防火管理者の基準評価点は、図1の自己評価点に比べて全体に下降しており、両者の比較から、経営に携わる立場の者ほど、施設の防災管理状況を現実以上に高く評価する、という傾向が見られる。

図 2. 基準評価点と防火管理者の職歴年数

(3) 基準評価点と自己評価点との差と、防火管理者の職歴年数 (図 3)

基準評価点と自己評価点との点差は、防災管理状況に対する防火管理者の認識の客観性を示す尺度と考えることができるが、同時にまた、RM能力の高さを示すとも言える。一般にはその差が小さい程、より正確に現状を把握しており、RM能力も高いと言えるが、その差がプラスの場合 (すなわち、自己評価が客観的評価よりも低い場合) は、防災管理に対する目標値を、より高く設定しており、現状ではまだまだ不十分と考えていることになる。また反対にマイナスの場合は、目標値が低いにも拘らずそれで十分と考えていて、現状に対する認識が甘いと言うことができる。

- ① 点差と職歴年数との間には、はっきりした相関関係は見られないが、職歴年数が 5 年以上になると、プラス側でもマイナス側でも、0 に収束していく傾向が見られる。これは職歴経験が増すにつれ、防災管理に対する客観的評価能力が増していくためと考えられる。
- ② 職務上の地位の高い者 (5 人) の内、4 人が点差でマイナス側に入っており、ここでも彼らが自身の防災管理状況に関して、やや甘い認識を持っている傾向がうかがえる。(但し、職歴年数の増加に従って、その差は減少している。)

図 3. 点差 (B-A) と防火管理者の職歴年数

(4) 基準評価点と自己評価点との差と、基準評価点 (図 4)

- ① 基準評価点が高いほど点差も高く、反対に基準評価点が高いほど点差も低く (一の場合は一側に大きく) なる傾向が見られ、極めてばらつきが大きいものの、プラスの相関関係が確認される。言い換えれば、防災管理能力の高い者ほど、より高い防災管理レベルが必要と考え、反対に防災管理能力の低い者ほど、より低いレベルで十分と考える傾向を示している。
- ② 職務上の地位の高い者は、全体的に基準評価点が低く、ここでも職務上の地位が、防災管理状況に影響していることが分かる

図 4. 点差 (B-A) と基準評価点

4. 考察とまとめ

本研究は「防災管理担当者の防災管理状況に対する認識の客観性が、RM能力の評価基準となり得るか」という命題から出発した。そして一般的に防火管理者の職歴年数が増すにつれ、防災管理に対する客観的な判断能力も増すことが示され、RM能力が職歴の長さに依存するという、極めて常識的な結論が導かれた。しかし半面、防災管理レベルの高い管理者が、現実の状況を客観的に把握することの難しさも示され、RM能力の評価方法としての課題も残された。また職務上の地位の高い者 (管理職、所有者等) が、一般的に防災管理に対しての認識が甘くなるという傾向も示されたが、今後、これらに関して、更に多くのデータによる調査が必要と考えられる。

5. 参考文献

- 西郷大諸 他「アンケート分析による高齢者介護施設の防災対策」平成 16 年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集 90-91、2004 年